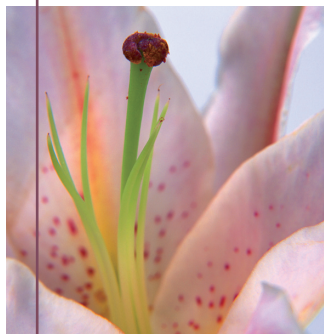




のもとよしみ 通信

2016年 10月

No.39

赤ちゃんからお年寄りまで
いきいきと暮らせるために



E-mail iki-iki-nonohana@nifty.com

※HPアドレスが変更になりました。

<http://nomotoyoshimi.in.coocan.jp>

事務所 〒252-0171 相模原市緑区与瀬1309-1
TEL: 042-682-6301 FAX: 042-682-6302

市民の「困った」を解決することこそ

津久井やまゆり園の事件は、国内外に大きな衝撃を与え、今なお波紋が広がっています。私自身、毎年、やまゆり祭等にお招きいただき、若手職員の趣向を凝らした演出やボランティアさんのご協力もあって、温かい雰囲気の中、入所者ご家族、地域住民の方々が楽しい時間を過ごされているのを拝見していただくと、尊い命が奪われ、多くの犠牲者が出たことに、深い悲しみと強い憤りを覚えています。亡くなられた19名のみなさまのご冥福をお祈りするとともに、体や心に傷を負った方々にとって、心穏やかな日が一日も早く訪れることを願っています。

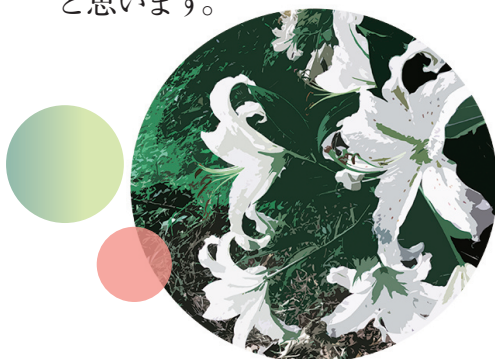
事件後、市職員が繰り返し発言していた「法に従って適切に対応した」という言葉に強い違和感があります。殺害予告の手紙、無職、大麻を使用、通院が必要な精神疾患、これだけの事実がありながら、退院後は「(市外の) 家族と

同居」と医師からの書類に記載されていたことを理由に(実際には市内に一人で生活し、生活保護を受給)、市の関わりを絶ったことは残念でなりません。たとえ市外で暮らすにしても、退院前に本人や家族と退院後の生活について話し合う場を設けていれば、事態は違っていただけたかもしれないと思うのです。

法や条例に従うのは当たり前のこと。市民の「困った」を受け止め、孤立させないようサポートし、解決に努める職員であってほしいと願います。市がセーフティネットとしての役割をしっかりと果たしていけるよう、職員の意識改革や職場環境の改善を粘り強く働きかけていきたいと思っています。

相模原市議会議員

野元好美



第31回 のもとよしみ 議会報告会

子育てしやすいまちをつくらう!

子どもは地域の宝。子育て真っ最中のあなた、おじいちゃん、おばあちゃん、子育て世代をサポートするみなさん、子育てしやすいまちについて、お話しませんか?

のもとが市の子育て事情についてお答えします。「こうなったらいいな」をみんなで実現しましょう!

日時: 11月6日(日) 10時~12時

場所: 相模湖公民館 1階会議室

日時: 11月6日(日) 14時~16時

場所: ソレイユさがみ

セミナールーム4

(橋本駅北口イオン6階)

参加費: 無料

お子さん連れ大歓迎!

12月議会の日程

11月18日(金)	本会議(提案説明)
11月29日(火)、30日(水)	本会議(代表質問)
12月 2日(金)、5日(月)~8日(木)	各常任委員会
16日(金)、19日(月)、20日(火)	
	本会議(一般質問)
21日(水)	本会議

*のもとよしみは、一般質問を行う予定です。

*インターネットでも議会中継、録画をご覧いただけます。

<http://www.gikaitv.net/dvl-sagamihara/index2.html>



27年度決算に反対の立場で討論



不祥事が続いた昨年度

27年度は、中期実施計画にあった小中学校の改修をすべて見送り、公共施設を削減する検討を進める一方で、橋本駅、相模原駅周辺拠点整備事業には、予算と職員を優先的に配分し、美術館2館構想や国際会議場、JR横浜線の立体交差化等の検討を推進。また、市政運営では、南区の選管職員の白票操作を始めとする不適切な選挙事務（P.4 参照）があり、長期にわたる下水道料金の徴収漏れも発覚。児童相談所における児童を裸にした所持品検査や保護を求めている中学生が自ら命を絶つ等、不祥事や事件が相次ぎました。

それぞれに職員の処分が行われ、再発防止策も検討されましたが、職員の適正な配置や縦割り行政の解消、現場にムリを強いる体制の改善など、根本的な原因の解決を図るべきと考えます。年度末には、職員のみならず市長を含む特別職の給与とボーナスの値上げを4月に遡って実施。度重なった不祥事について、どこまで襟を正すことができたのか、大変疑問です。

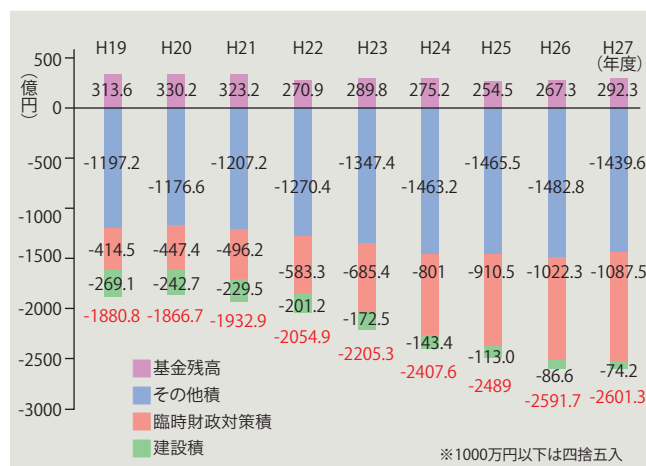


将来に備えた基金は積めず

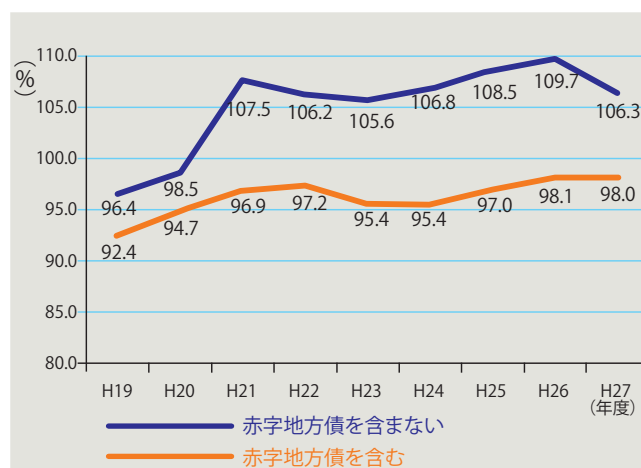
市税は前年度より1.7億円増え、消費税増収分として約53億円が市に交付されましたが、歳出では扶助費の増加がそれを上回り（約61億円増）、相変わらず厳しい財政状況です。圏央道など大規模な事業が一段落し、市が推進する拠点整備事業や公共施設の改修に備え、基金を積みすべき年度でした。基金残高は25億円増えていますが（資料①）、16億円は借金返済のための積み立てで（減債基金）、9億円は財政調整基金（普通貯金）。将来に備えた目的基金は積みませんでした。また、経常収支比率は98%と、収入のほとんどの使い道が決まっています（資料②）、新たな事業を行うには、今ある公共サービスを廃止するなど、財源の確保が必要となります。

高齢者の増加等により、財政はますます厳しくなる見通しです。公共サービスや事業の取捨選択が求められます。財政や市政の情報を公開し、開かれた議論を行って、市民の理解を得ながら進めるよう要請しました。

資料① 基金（上段）と市債（下段）の残高の推移



資料② 経常収支比率の推移



リニア駅建設に伴う 橋本駅周辺の事業



JR東海がリニア駅の建設を始める31年度を目途に、橋本こどもセンターは、旭中学校敷地内に移転することが決定し、設計のための予算を可決（4023万円）。児童クラブの定員を増やし（113名）、中高生のための創作活動室をつくるため、191㎡広くなって850㎡に。財源は、JR東海からの補償費が基本ですが、拡大分は市で負担します。建設工事は30年度、開館は31年度の予定です。

また、橋本駅南口へのアクセス道路と駅前広場の設計等の予算も可決（6800万円）。県は、相原高校の移転のため、職業能力開発総合大学校跡地のうち、約11.9haを61億6500万円で購入し、31年度の開校をめざします。

民生委員会

🌸 児童クラブは6年生までに

児童福祉法が改正され、児童クラブの対象が27年度から6年生までに拡大されました。しかし、相模原市は3年生までのまま。待機児童がある学区もあり、一斉に6年生まで拡大するのは難しい状況ですが、児童館やこどもセンターなど子どもが安心して過ごせる場所がない学区や定員に余裕があるクラブなど、諸事情を考慮し、可能などころから学年を拡大するよう要請しました。

🌸 児童クラブの指導員の待遇向上を

第2の家庭と言われる児童クラブ。生計を立てるのに精一杯だったり、さまざまな事情を抱えたりする保護者が増えている中、指導員の役割はますます重要になっています。本市は時給制で、勤務時間もまちまちのため、仕事としては不安定。町田市や八王子市は、指定管理者制度を導入していて、常勤で固定給の指導員の配置が絶対条件となっています。

子ども・子育て新制度により、児童クラブの運営に県からも財源がくるようになりました。これを機に、子どもの特性や育っている環境、人間関係などにも配慮しながら、健やかな育ちを支えられる指導員を安定して確保するため、常勤の指導員の配置を検討するよう求めました。

🌸 児童相談所の体制の強化を

児童相談所（以下、児相）は、子どもを守る最後の砦です。機会あるごとに適正な職員配置を求めてきましたが、**のものと**の質疑で、児童福祉士1人の担当件数は、2013年は75、14年は85、15年は82、16年は90（いずれも4/1現在）だったことが明らかに（理想は30～50件）。児童虐待数が年々増えているのに、職員数は3年連続で1人ずつ減らされています。児相で不祥事が起きた背景には、多忙さも大きな要因と考えます。職員の資質や力量を高めるだけでなく、思考停止や重大な判断ミスに陥らないような環境を整えるよう強く要請しました。



🌸 限られた予算を効果的に使う努力を

事業の中には、求められるままに拡充してきたサービスや費用対効果が曖昧なものがまだ存在します。成人歯科健康診査事業（1件6000円かかる検診費を40～70才未満は500円、70才～80才までは無料に）や子育て広場事業（実績に関係なく、民間保育園72園に一律130万円ずつ配布）を例に、事業の精査とより効果的で質の高いサービスにしていける努力を求めました。

新教育長は、元都市建設局長

新教育委員会制度になって初めての教育長人事。教育委員長と教育長が一本化され、首長が議会の同意を得て、教育長を直接任命するため、教育の政治的中立性が損なわれるのではという懸念の声もあります。

市長を選んだ人物は、3月まで都市建設局長を務めて定年退職し、4月から人事委員会で再任用されていた野村氏。副市長人事に続いて今回も市職員OBです。

仕事ぶりには定評のある方ですが、企画財政や都市建設の分野で管理職を務め、教育行政は未経験。また、女性の起用や民間、公募も含めた幅広い人材の活用を要望していたこともあり、会派を代表し、市長の教育観や新教育長に期待すること、幅広い人材登用の考えについて質疑しました。

野村氏の所信表明には、「（教育の基本理念は）人や企業に選ばれるまちづくりに向けた、魅力ある都市形成や～総合的な施策の展開～で、実現に結びつく」「事業の効率性やプライオリティの明確化に配慮するなど、経営感覚をもった教育施策を実施」など、気になる言葉も。

教育は、数値化になじまなかったり、中長期的な視野が求められたりすることを指摘し、教育現場の声をしっかりと聴きながら、子どもが育つ環境にも配慮しつつ、生涯にわたって豊かな学びを保障するために尽力していただけるよう要望しました。





生活道路の予算の確保を～八幡橋～

藤野地区佐野川の八幡橋の護岸が崩落し、全面通行止めに(2/22)。ところが、住民説明会が開かれたのは、5か月半後(8/9)。今年度に設計を行い、工事は来年度で、平成30年度の供用開始をめざすとのこと。住民からは、「説明会の開催が遅すぎる」「仮橋より迂回路の安全対策」など不満や要望が次々出されました。

迂回路は山の斜面の狭隘な道路ですれ違いができず、対向車が来れば、曲がりくねった山道をバックするしかなく、夜間はさらに危険です。お年寄りが多い山間部。移動は車が頼りです。通行止め後、直ちに地元住民と話し合いの場を持つべきでした。猛省を促し、速やかに迂回路の安全対策を行うこと、来年度の工事にすぐ取りかけられるよう、ゼロ市債を活用するなど工夫をして、一日も早く橋を完成することを求めました。

また、生活道路の安全を確保するために、穴埋めや草刈りなどに必要な予算を担保するよう要請しました。



看取りのできる家を地域に

あなたは、最期をどこで迎えたいですか？自宅がいいと思っても、現実にはいろいろなハードルがあります。自宅で過ごすように生活しながら最期を迎えられる「ホームホスピス」は、一つの選択肢ではないでしょうか。

足立区にあるホームピア「むつみあい」を見学。2階建ての住宅を昇降機や火災通報装置をつけるなど改修し、5人が入居できる住宅型有料老人ホームに。2棟で10名の定員です。「最期の瞬間までその方らしい生活ができるよう支えたい」と代表の佐藤さん。入居者の希望を丁寧に聞き取り、対応している姿が印象的でした。



ホームピア「むつみあい」(足立区)

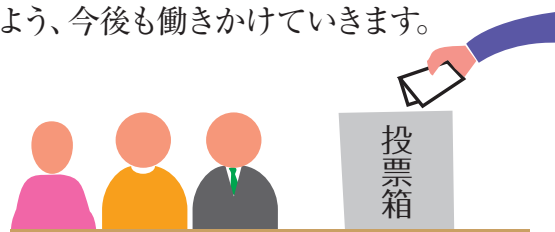
一般の住宅を改修した終の棲家。看取りのできる地域をめざして、本市で広めていくための課題を整理したいと思います。

市選挙管理委員の推薦を辞退

選挙管理委員会の委員(4人)が、議会で選ばれているのをご存知ですか？市長から独立した機関とするために、地方自治法で定められていますが、その選び方は議会によってさまざま。相模原市議会では、慣例で大きな会派から順に委員を推薦し、本会議で承認しています。委員には、議員OBや市職員OBの姿も。

昨年4月の市議選で、南区では最後の議席を1票差で3人が争い、当選結果を不服とする異議申し立てが提出されて、最高裁まで争われました。結果、1票の有効票が認められ、当落が逆転。選管の職員が白票数を操作していたり、区選管と市選管で有効票の判断が異なったりするなど、あるまじきことが。

任期満了となる市選管の委員を選ぶにあたり、選挙事務の公正さへの信頼を回復するため、颯爽の会から、選考委員会を設けて、団体推薦(弁護士会等)や公募により委員を選出する方法を提案しました。残念ながら他会派の賛同が得られず、従来通りになったため、颯爽の会は推薦を辞退しました。より開かれた選出方法となるよう、今後も働きかけていきます。



公共施設のマネジメントと公民館の有料化

市は、公共施設の延べ床面積を20%削減することを目標に、地区別に施設名を明記した「(仮称)公共施設マネジメント推進プラン」を作成し、まちづくり会議などでの説明やパブリックコメントを実施した後、来年の2月にプランを策定する方針です。まずは、地域住民との十分な話し合いが必要です。

また、公民館の有料化(広さに応じて使用料を設定)と減免対象について、公民館の運営協議会でヒアリングを行っています。公民館は、経済格差の広がり、年金生活者や低所得者の増加、健康維持や孤立化の防止など社会状況や使用目的を考慮し、誰もが集い、学べる場所として保障すべきと考えます。